

令和4年度 施政方針

2月22日に開催された市議会
本会議で、木山耕三市長が令和
4年度の施政方針を述べました。
その一部を抜粋して紹介します。
(全文は市ホームページに掲載し
ています)

1. はじめに

令和4年度当初予算案のご審議をお
願いするに当たり、私の市政運営に対
する一端を申し述べ議員各位ならびに
市民の皆さんのご理解、ご協力を賜り
たいと存じます。

まずは、一般の新型コロナウイルス
感染症の感染拡大に対し、医療機関、
介護・福祉施設をはじめ、日々懸命に
対応されておられる全ての方々に対



し、深く敬意を表します。

また、生活全般におけるさまざまな
行動抑制にご協力をいただいております
も、市民・事業者の皆さんに對しまし
ても、重ねて感謝を申し上げます。

3期目の市政運営のスタートとなり
ました、この一年を振り返ってみます
と、依然として猛威を奮う新型コロナウイルス
感染症の感染拡大への対応
や、旧「かんぼの郷庄原」取得の判断、
JR西日本からの芸備線活用促進へ
の申し入れ、また、平成30年災害から
の復旧途上での豪雨災害の発生など、
直面する喫緊の課題へ対処いたしました
ところでございます。

中でも、政治・経済・文化活動など
人々の生活を大混乱に陥れた新型コロナ
ウイルス感染症の世界的なパンデ
ミックは、いまだ収束の兆しが見通せ
ない状況でございます。

我が国では、昨年1月から3月、4
月から9月の2度にわたり緊急事態宣
言が発出され、特に感染第5波の渦中
であった8月には感染者が急増し、首都
圏をはじめ各地の医療体制が逼迫する
状況でございました。その後、新規感染
者数も落ち着きを見せ、人流の抑制緩
和など経済活動の活性化が期待されて
いた昨年12月、新たな変異株「オミクロ
ン株」が国内で確認されて以降、急激
に感染が再拡大したことから、本年1
月以降、36都道府県に対し「まん延防
止等重点措置」が適用されております。
本市におきましても、オミクロン株



小学校での新型コロナウイルス感染防止対策

2. 市政運営の基本方針

まずは、平成30年以降、度重なる豪
雨災害からの早期復旧・復興の取り組
みでございます。

近年、全国各地で自然災害が頻発し
ており、本市におきましても昨年7月
および8月に豪雨災害が発生いたしま
した。

こうした状況を踏まえ、令和4年度
では災害復旧事業を統括する防災・災
害事業監ならびに災害復旧課を新たに
設置し、早期復旧に向け、事業の推進
に努めるとともに、道路・農業用施設
などの強靱化など、事前防災の取り組
みにも注力してまいります。



災害復旧事業による復旧後の状況

次に、新型コロナウイルス感染症の
感染拡大への迅速かつ的確な対応でご
ざいます。

現在、感染力が高いとされる「オミ
クロン株」が広くまん延していること
から、本市におきましても医師会や関
係機関の協力をいただく中で、新型コ
ロナウイルスワクチンの3回目接種
を、当初の接種スケジュールを前倒し
し、1月18日より開始しております。
今後、ワクチンの接種体制を確保し、
迅速かつ着実に実施してまいります。

続いて、本市における最上位の行政
計画であります「第2期長期総合計画」
に基づく施策の推進でございます。

昨年策定いたしました「第2期長期
総合計画・後期実施計画」に基づき、
令和7年度までの計画期間において、
本市の将来像である「美しく輝く里山
共生都市」の実現に向け、5つの基本
政策に基づく施策を効果的に実施して
まいります。

次に、「地域産業」「暮らしの安心」に
ぎわいと活力」の3つの基本政策に基
づく「第2期庄原いちばんづくり」の
推進でございます。

これまでそれぞれの政策分野におい
て、優先的かつ集中的な事業実施によ
り、「農業業をはじめとする産業の振
興」や、「子育て・医療体制整備など
の暮らしの安心の提供」「移住定住促
進や地域イベントなどによるにぎわい
の創出」を実現してまいりました。新
年度におきましても、「庄原いちばん



取り組みが進む新型コロナウイルスワクチンの3回目接種

づくり」の理念である「心のいちばん」
を、本市に関わる全ての皆さんに感じ
取っていただけるよう、それぞれの施
策を押し進めてまいります。

さらには、10年先のまちづくりを見
据えた、人口減少対策への取り組みで
ございます。

外部からの有識者である「人口減少
対策戦略プロデューサー」を交えた、
庁内の「人口減少対策戦略本部」によ
る検討を踏まえ、本市の魅力や「知っ
てもらい」、「実際に「来てもらい」、そ
して生活の場として「選んでもらう」
ための施策について、これまでの取り

組みに加え、新たな事業も含め展開し
てまいります。

なお、新型コロナウイルス対策など
国・地方を通じ、引き続き、厳しい財
政状況が想定される中、本市の健全な
財政運営の行動指針とする、「第2期
持続可能な財政運営プラン・後期実施
計画」を昨年11月に策定いたしました。
今後、持続可能かつ社会情勢の変
化に柔軟に対応可能な財政基盤の維持
に向け、市民の皆さんのご理解をいた
だきながら、着実に取り組みを進めて
まいります。



非常用電源としても活用できるプラグインハイブリッド車の導入



整備が進む子育て支援施設



林業体験交流施設が完成



庄原産米の収穫の様子

3. 庄原いちばんづくりの主要事業

●「地域産業」のいちばん
▼新たな可能性で切り開く「稼ぐ」地域産業の構築

農業の分野では、国の新たな新規就農対策である、新規就農者育成総合対策事業を積極的に活用し、機械および設備などの整備に対し支援することで、農業への人材の一層の呼び込みと定着を図ってまいります。

林業の分野では、「22世紀の庄原の森林づくりビジョン」に掲げる「儲かる循環型林業」を体現する林業事業者の確保・育成への新たな取り組みに着手いたします。研修会の開催や林業研修教育の受講への支援を通じ、次代の林業を担う人材の育成および市内での就業を促進し、働く場所の確保を図ってまいります。

また、庄原産材のブランド力向上および市場の開拓を図るため、引き続き、庄原産材を原材料とした製品開発や、安定供給と加工体制の確立を目指し、市内への製材所誘致に向けた働き掛けを民間事業者に対し、行ってまいります。

▼「食の宝庫 庄原」の強みを生かしたブランドینگ

「比婆牛素牛」増頭のための畜産農家への支援や、市内の「比婆牛」を取り扱う店舗に対する店舗改修や広告経費の支援を継続し、戦略的にブランド力を高めてまいります。

▼安心・安全で快適に暮らせる生活基盤の確保
高齢者などの見守りを行う移動販売事業者に対し、事業継続に寄与する支援を実施することで、地域の店舗から遠隔地に居住する高齢者などが、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境づくりに努めてまいります。併せて、口和地域に新たに高齢者冬期安心住宅を整備することで、積雪など冬の暮らしで生じる不安の解消を図り、高齢者が安心して生活できる環境を整えてまいります。

また、世界的な気候変動問題への解決策として、今後、国策として官民一体となったエネルギー政策の大転換が求められております。こうした時代の要請に沿った中で、地域における脱炭素化社会推進の取り組みとして、まずは公共施設などの計画的なLED化を実施してまいります。

▼地域で活躍できる次代を担う人材育成

校舎・屋内運動場などのトイレ洋式化を年次的に実施するとともに、大規模改修の時期を迎える学校施設について、計画的な長寿命化を行うことで、学校における児童・生徒の安心・安全な学習環境を確保してまいります。



比婆牛販売促進会の様子

さらに、全国的な食味コンクールで数多くの好成績を収めている庄原産「ブランド米」について販売促進などの支援を行い、ブランド力をより強力なものとし、高価格での流通による農家所得の向上に結びつけてまいります。

▼新たな時代の潮流を取り込んだビジネスモデルの構築

国の地域商業機能複合化推進事業を活用し、商店街などにおける消費動向調査や、空き店舗などの活用実証事業について、情報収集や分析の支援を行うことで、事業者の経営継続や新規創業者の創出など、雇用の場や人材確保

●「にぎわいと活力」のいちばん
▼人口ビジョンに基づく将来人口の確保と地域課題解決への挑戦

近年の生活スタイルの多様化や情報通信技術の高度化により、注目度が高まっている交流人口や関係人口を拡大するため、既存の「ふるさと応援団」と「帰ろうや倶楽部」を再編し、まちづくり団体や青年会議所、商工会青年部、県大生などと連携するワークショップを母体とし、交流イベントの実施を通じて市内外の人々をつなぐ「庄原ファンクラブ（仮称）」を設立いたします。

また、転入者に対する定住促進奨励金の支給、空き家活用への支援なども継続することといたしております。

▼にぎわいを生み出すさらなる魅力の創出

庄原市民会館および庄原自治振興センターの大規模改修について、令和5年度春の完成に向けて、工事を本格化してまいります。

▼多様な地域資源を結び、輝かせる連携の構築

市内の屋外体験施設の魅力を調査し、それぞれの施設の特色を生かしたアウトドア施設の整備方針を取りまとめた上で、ニーズに沿った施設整備を実施し、自然と調和した観光スタイルをアピールしてまいります。

を図ってまいります。加えて、サテライトオフィスならびにワーケーションの誘致を積極的に展開し、関係人口の拡大を推し進めます。

また、官民連携の優良モデルとして、全国的にも注目を集めた「いざなみカード」の一層の利用促進に加え、新たに市内小学校における児童見守り事業の全市展開を支援し、地域内経済循環と併せ、子育て世帯の安心感の醸成を図るとともに、「新たな生活様式」の実践に取り組んでまいります。

●「暮らしの安心」のいちばん

▼安心を実感できる子育て環境の整備
庄原赤十字病院に対し、引き続き支援を行うことで、市内での産科体制の維持を図ってまいります。

さらに、新年度より、全ての子どもとその家庭および妊産婦などへの支援をワンストップで対応する拠点機能として、「子ども家庭総合支援拠点」を整備し、これまでの支援体制、業務の相互連携を強め、相談機能の向上を図ってまいります。

また、就労形態の多様化など、子育て世帯のニーズに対応した小学校放課後児童クラブ実施施設について、計画的な施設整備に着手することとし、新年度では庄原小学校児童クラブおよび口和小学校児童クラブの整備を実施いたします。なお、東城子育て支援施設につきましては、地域における子育て支援拠点のあり方を議論するための検討



庄原市民会館および庄原自治振興センター 完成イメージ

4. おわりに

私は、これまで、「まちづくり」の過程におきましては、市民や本市に関わりを持つ皆さんとの意見交換を通じ、熟慮を重ねて政策判断を行ってまいりましたが、現在では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、皆さんとの交流や広聴の機会を設けることが、難しい状況でございます。

こうした状況の中ではございますが、まずは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を最優先とし、市民の皆さんの健康および地域経済を守り抜く施策について、国の地方創生臨時交付金の活用を含め、必要な予算措置により、適時に検討・実施してまいります。



芸備線などを走るラッピング列車「カーブ号」



県境鉄道サミットの様子

併せて、コロナ禍後の社会生活の変化も視野に入れつつ、国のデジタル田園都市国家構想に沿ったデジタル化による暮らしの質の向上や、公共施設のLED化など、地域の脱炭素化を推進し、次世代に豊かな自然をつなぐ取り組みにも、目を向けてまいりたいと考えております。

また、昨年6月、西日本旅客鉄道株式会社から「芸備線沿線の地域公共交通計画に関する申し入れ」を受けました。以前より、本市にとってJR芸備線は日常利用に加え、観光利用におきましても重要な地域資源であると認識いたしており、この申し入れを受け、活用対策の強化を一段と推し進めております。

こうした中で、地域振興や観光振興において豊富な知見と経験を有する「JR芸備線利用促進プロデューサー」を設置し、関係自治体やJR西日本との協議、利用促進事業を迅速に進めるための体制を強化するとともに、11月には、芸備線・木次線の沿線自治体である奥出雲町と新見市との連携イベント「県境鉄道サミット」を開催し、市内外に大きなインパクトを与える取り組みを実施いたしました。その結果、JR芸備線の土・日・祝日の利用者数が、前年同月と比較し、2倍以上となった区間もあり、一定の効果も見えつつあります。

JR芸備線を盛り上げる機運は、市民の皆さんに加え、市外の芸備線を応

援してくださる多くの方々には波及しており、広島カープ球団などの協力による「カープラッピング列車」の取り組みなど、着実に拡大しております。そうした方々の力を結集する中で、市内外の皆さんの熱意と共に、地域生活基盤を維持するため、引き続き、利用促進施策の取り組みを進めてまいります。

本市の最重要課題として捉えております人口減少対策につきましては、これまで長期的な視点に基づき、総合的な施策を展開してまいりました。その結果、移住支援施策を活用した定住者が増加するなど一定の成果は表れているものの、依然として人口減少が進む現状は、大変厳しいものと認識いたしております。

この現状を打破するため、市政運営の基本方針において申し上げた理念を踏まえ、本市の10年先を見据え、地域の資源や強みを生かした人口減少対策の検討体制として、若手職員の意見も取り入れ、組織横断的な取り組みをスタートさせたところでございます。

人口減少対策は、即時に成果を得ることは非常に困難であると認識いたしておりますが、今後も新たな視点に立ち、この大きな課題克服に取り組んでまいります。

最後になりますが、平成25年4月に市長としての重責を担わせていただいた以来、10年という節目を迎える年となりました。

この間、市民の皆さんと共に地域の活力を取り戻し、にぎわいと安らぎに満ちた生活を営むことができるよう、政策の柱として「庄原いちばんづくり」を掲げ、本市の最重要課題である人口減少対策をはじめ、さまざまな課題に、正面から向き合ってきました。

新年度におきましても、市民の皆さんの暮らしの安心を最優先事項とし、市政へのご意見に耳を傾け、広く本市に関わる方々と地域の将来像を共有する中で、「やっぱり、庄原がいちばんええよのう」と実感できる「まちづくりに」全力を傾けてまいります。

議員各位、ならびに市民の皆さんのご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。私の施政方針といたします。

